「食と農」の博物館 展示案内

No.34
東京農業大学「食と農」の博物館
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28
TEL.03-5477-4033 FAX.03-3439-6528
開館時間 午前10時～午後5時（4月～11月）
午前10時～午後4時30分（12月～3月）
休館日 月曜日（月曜が祝日の場合は火曜）・毎月最終火曜日
大学が定めた日（臨時休業がありますのでご注意ください）
展示期間
2008.11.20～2009.5.6

地球を庭にした「造園」の仕事と魅力

■造園って一体、何をするの？

“造園”という言葉の響きからすると、ちょっと解りづらいかもしれません。「庭づくり!」、「植木屋さん!」、そう、それもあります。でも本当は、それだけではありません。自然保護、自然再生、国立公園、観光、景観、緑地計画、都市緑化、公園、街路樹、ガーデニング、生物多様性、…、これらの言葉で表現される事柄も、全て“造園学”の対象です。また、明治神宮の森やディズニーランドの花や緑、横浜国際競技場の芝生も造園の知恵と技術があってこそ出来上がったものです。近年、心配されているヒートアイランド対策の切り札となる屋上緑化やCO_2吸収の森林保全なども造園の課題です。造園家の仕事は、人生を賭けるに値するチャレンジフルで魅力的な仕事です。

「造園」は、庭づくりからはじまり、近年では地球規模も対象とするようになりました。今回の企画展では、皆さんの日常生活に身近にかかわっている造園という学問分野の紹介、具体的な造園の仕事の内容やその魅力、おもしろさを、東京農業大学地域環境科学部造園科学科の授業・演習、研究室活動、そして、造園家の活躍ぶりを通してお伝えします。

栗林公園（高松）

アクロス福岡（福岡）

ピーターラビットの村（イギリス･ヒルトップ）

白馬（長野）

1.“にわ”のはじまりと造園家

“にわ”の歴史を辿っていくと古くは紀元前にまでさかのぼります。エジプトやイスラムの庭園では、強い日差しを遮るための緑陰として樹木が植えられ、さらに涼しさのある空間をつくるために水が用いられました。また、食料にもなる実のなる木や、薬として使える植物で飾られ、美しい庭は、人間が生きていくうえで必要な空間であったことがわかります。その後、庭園様式は、イタリア、フランス、イギリスで独特な展開をしていきます。特にフランスでは、有名なベルサイユ宮苑に代表されるフランス平面幾何学式の庭園様式が生まれます。中心軸をもつ左右対称の構成や宮殿を要として街にむけた放射状の街路デザインは、強大な軍隊を統率することと関連した形態であるといわれています。

また、『もともと「ガーデン（garden）」は、防衛するという意味のガン（gun）と、悦び、愉しみという意味のエデン（eden）の合成語である。いわば庭園とは、「安全で快適な場所」であって、「人間にとっての理想世界」をイメージさせるものである。』（進士五十八著「日本の庭園　造景の技とこころ」中公新書2005年）とも言われています。

6.身近な緑を愉しもう

とはいえ、私たち一人ひとりにとって地球の規模の課題はあまりにも大きく、日常生活の中で現実味が薄れていきがちです。まずは、あなたの机の上や部屋に一輪のつぼみを飾りましょう。花が咲いたとき、生命感、季節感を感じるでしょう。次に道路に面したところに、花や実のつく一本の木を植えましょう。実を採ってジャムをつくり、いつもの何気ない日曜の朝食を少し愉しんでみましょう。

もともと庭は、人々の生活に必要なものを集めた場所でした。街や村、国土、そして地球を“にわ”としてとらえることで、日々そんなに苦労せず、愉しみながら地球環境が改善されていくのではないでしょうか。　文責：阿部 伸太

■地球を庭にした「造園」の仕事と魅力　企画:東京農大造園科学科

造園の世界への3つのステージ

Stage Ⅰ：11月20日～ 1月25日　都市の緑を活かし・つくる技

■上原敬二とＤＮＡの継承者／サッカー場を守るグリーンキーパー、女性造園家の活躍
■都市緑地の魅力／公園・森・海を活かした街の魅力
■魅力的な都市緑化技術／ミッドタウン、恵比寿ガーデンプレイス、アグリス成城
■最新緑化技術／サッカー場、テーマパーク
■街の緑をまもる市民活動／世田谷区すみれば自然庭園ワークショップ
■デザインを学ぶ者たち／現役学生の課題作品・ワークショップ参加作品

StageⅡ：1月27日～ 3月15日　地域の魅力を引き出す技

■地域の材料を活かす技　■日本の道路・その歴史と技　■地域固有の景観を活かす技
■最先端技術でものを測る技／文化財から自然空間まで

StageⅢ：3月17日～ 5月 6日　１本の緑・大きな緑を育てる技

■樹木と私たちの生活　■地域のみどり　■都市のみどりから自然のみどりまで

※StageⅡ・Ⅲの詳細は造園科学科ホームページにて更新　http://www.nodai.ac.jp/land/index.html

トークイベント

12月21日（日）13：00～14：30
プロローグ：街のみどりあれこれ

講演：緑のテーマパーク東京
造園家の知恵と技を東京圏を事例に紹介

◆講師：近藤 三雄
東京農業大学造園科学科教授
都市緑化技術研究室

◆司会進行／プロローグ＆エピローグ：
阿部 伸太
東京農業大学造園科学科准教授
都市緑地計画学研究室

エピローグ：実学主義：さあ、フィールドにでよう！

※トークイベントで紹介された場所をぜひ見に行ってほしい。そんな願いをこめて、これからの時代をつくる中高校生に抽選でチケットもプレゼント。

ワークスプレゼンテーション：現役学生の作品発表会

2月15日（日）13：00～16：00　ランドスケープデザイナーも集結。

◆ 近刊案内：「造園力」で地球を庭に

東京農業大学造園科学科編　東京農大出版会
※あなたの生き方をみつける、かえる。造園の仕事と魅力、短編集　【予定価格 1,600円】

PRINTED WITH SOYINK この印刷物は再生紙を使用しております。
2008.11.20.5000

砂漠地域で快適に過ごすことや、敵からの防御体制が整っていることなど、時代的背景により快適な場所の意味合いは変化するものの、庭は生活に密接したものであったことにはかわりありません。日本でも夢窓疎石、植治こと小川治兵衛などをはじめとする造園家によって日本独自の宇宙観、自然観や精神的意味合いを取り込みながら庭園様式は展開してきました。ベルサイユ宮苑を設計した、ル・ノートルも代々続く宮廷造園家であったように、造園家は、快適で理想的な場所づくりの担い手として誕生し、活躍してきました。

ベルサイユ宮苑（フランス）

ハイドパーク,ケンジントンガーデンズ（イギリス・ロンドン）

明治神宮（代々木）

2. “Park” のはじまり

産業革命のころになると“にわ”は“Park”として都市の重要な施設になっていきます。イギリス・ロンドンでは、蒸気機関の発明と改良によって紡績業が飛躍的な発展をとげる一方で、大気汚染を発生させました。さらには労働者の急増により、都市環境は悪化、伝染病が蔓延する事態となっていきました。こうした背景の中、バッキンガム宮殿周辺にあるハイドパーク、セントジェームズパークといった王室の狩猟苑が市民に解放され、これにより公園が登場しました。Parkとは、中世ではもともと狩猟のための囲まれた場所を意味していました。当時、城郭都市であったヨーロッパの街において、こうした空間は特別な階級のためのものであって、けして市民のためのものではありませんでした。この王室の狩猟苑の解放により、市民が心身ともに健康に暮らすための公園が都市地域に生まれました。ロンドンの公園では平日であっても、夕暮時には、あらゆる世代の人々が、サイクリング、散歩、談笑、日光浴など思い思いの過ごし方をしているのが印象的です。

3.関東大震災と東京農大造園科学科

日本では明治時代になり、東京における都市計画の法律である東京市区改正条例がつくられました。これに基づいて日比谷公園が日本の最初の近代都市公園として新設されました。このころを期に造園家の仕事は、庭園・公園にとどまらず、都市空間へと対象の範囲を広げていきました。明治天皇が崩御され、明治神宮の造営が行われました。このとき神宮の森づくりでは、日比谷公園の設計も手掛けた本多静六、そしてその門下生でもあった上原敬二らによって、50年、100年先の樹木の生長をみこして計画が進められ、現在では「人のつくった森」とは思えないほどの荘厳な森になっています。

1923（大正12）年、関東大震災が発生し、東京・横浜を中心に街は壊滅的な被害を受けました。この状況を立て直すため若冠35歳の上原敬二が動きました。樹木学をベースにしながらも計画学など造園学全般にわたり造詣の深い上原は、安全で健康的な地域づくりを担う人材育成をねらいとして、1924年に東京高等造園学校を設立しました。これは1942年には東京農業大学専門部造園科となり、現在の東京農業大学造園科学科に至っています。

4.地球環境を考える時代

近年の緑づくりにおいては私たちひとりひとりが心身ともに健康に暮らすためだけではなく、健康に暮らすことができるための環境形成・維持の視点が重要になってきています。1997年の京都議定書、今年は北海道で洞爺湖サミットが開催されました。地球環境の改善に向けた論議が世界的課題として顕在化してきた結果と言えるでしょう。アメリカのアル・ゴア副大統領は、現在の地球環境に対して問題提起し、世界各地で講演を行っています。10月に来日されたイギリスのチャールズ皇太子も、現在のこの問題に目をそむけるべきではないと警告しています。今日のように科学技術が発達した時代においても地球環境問題は、地球と人類の歴史の中ではまだ、ようやくスタートラインに立った段階といえるでしょう。

5.造園家・ランドスケープアーキテクトの仕事

こうした時代背景の中、造園家の仕事はますます重要かつ拡大しています。都市の緑、農山村の緑、国土の骨格となる自然地、そして、地球規模の環境安定にかかわる砂漠緑化や熱帯雨林の保全など。人々が暮らす環境を安定させ、そして充実した文化生活をおくるために緑は重要な役割が課せられています。

皆さんもすでにご承知のとおり、都市の温暖化（ヒートアイランド）の改善にむけて建築物の屋上緑化や壁面緑化が行われ、都市内に風を流すためにビル周りにオープンスペースを確保し、さらには気温低減や日射遮蔽のために樹木を植えるようになりました。一方で、都心の大規模開発においては、環境改善のためだけではなく商業・ビジネス・居住地域としての付加価値を高めることも意図した斬新で洗練されたデザインのオープンスペースが登場するようになりました。さらには、世界的に注目を集めている中国・上海や北京、中東・ドバイなどの都市開発においても、造園家（ランドスケープアーキテクト）が求められるようになってきています。また、このように街に緑を創出していくためには、どういった植物がどのような環境下で健全に育ち意図通りの景観が形成されるのか、健全に育てるためにはどのような技術が必要なのかを熟知していることも造園家、ランドスケープアーキテクトにとっては大切であり、こうした研究や技術開発も日々行っています。

一方、都市内の樹林や緑豊かな住宅地の樹木の保全・育成、そして、そうした緑を大切にし、利活用するコミュニティーづくり、まちづくりのコーディネーターも重要な役目です。地域には様々な考え方の人々、様々な事情により一つの方向性を導き出すのは容易なことではありません。しかし、多くの方々が納得し、一人ひとりが活き活きと生活できる地域づくりや観光計画は、避けては通れない課題です。この能力は、都市地域に限らず農山村地域の活性化にも役立てることができます。都市生活者にとって、農山村地域や自然豊かな地域でリフレッシュすることは、日常生活を健全にする上で重要です。大都市、地方都市、農山村地域、自然豊かな地域のバランスある成長は、国土を豊かにするとともに、私たちの生活を楽しく快適にすることにつながっていきます。

サッカースタジアム（千葉・蘇我）

アイランシティぐりんぐりん（福岡）

東京国際フォーラム（東京・有楽町）